令和２年度全国学力・学習状況調査

１、今年度の問題を解いてみましょう。　【国語】

国語 2　提案する文章を書く（わたしたちにできる「プラスチックの３Ｒ週間」）

2

岩田さんの手紙では、生活の中で気になったことについて調べています。岩田さんは、プラスチックごみの問題について調べ、ごみを減らすための行動について学級の友達に提案することにしました。次は、岩田さんが書いている文章の【下書き①】と【下書き②】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【下書き①】

提案します　わたしたちにできる「プラスチックの３Ｒ週間」

■　知っていますか　プラスチックごみの問題

わたしたちの周りには多くのプラスチック製品があります。例えば、ペットボトル、ストロー、レジぶくろなどです。プラスチック製品のおかげで、わたしたちは便利な生活を送ることができています。

しかし、これらのプラスチック製品がごみになると、大きな問題になります。最近の新聞には、海岸に打ち上げられたクジラの胃の中からペットボトルなどが発見されたという記事や、森のサルがプラスチックごみを食べてしまったという記事がありました。わたしは、プラスチックごみが生き物に深こくなえいきょうをあたえていることにアひじょうにおどろきました。かん境省のホームページによると、世界のプラスチック容器の生産量は、1964年は1500万トンだったのが、2014年には３億1100万トンになっているそうです。以前に比べて増えていることが分かります。

プラスチックは時間がたつと分解されてなくなるだろうと考えている人がいるかもしれません。けれども、

■　みんなで減らそう　プラスチックごみ

わたしは、便利だからといってプラスチックを当たり前のように使うという考えをイあらため、プラスチックごみを減らすためにできることをしたいと思いました。そこで、わたしたちにできる「プラスチックの３Ｒ週間」を提案します。３Ｒとは、ごみそのものを減らすリデュース（Reduce）、くり返し使うリユース（Reuse）、ごみを資げんに変え、再び利用するリサイクル（Recycle）のことです。

わたしたち一人一人の力はとても小さいかもしれません。しかし、その力が積み重なれば大きなものになります。

Ａ　大切なことは、行動することが大切だと思います。

【下書き②】

■　やってみよう　プラスチックの３Ｒ

家の人といっしょに、まずは１週間、プラスチックごみを減らすことに取り組んでみませんか。実行できたら□の中に印を入れ、どのくらい実行できているのかをウたしかめましょう。他にも具体的な行動が見つかったら、書き加えて実行してみましょう。

プラスチックの３Ｒ週間　チャレンジ表

３Ｒ	具体的な行動
減らそう リデュース（Reduce）	□ バッグを持参し、レジぶくろをもらわない □ ふたつき容器を使い、ラップの使用を減らす □ コップから飲み、ストローを使わない □ 水とうを持ち、ペットボトルを買う回数を減らす □ □
くり返し使おう リユース（Reuse）	□ シャンプーはつめかえ用を買い、容器をくり返し使う □ 液体石けんはつめかえ用を買い、容器をくり返し使う □ □
資げんに変えよう リサイクル（Recycle）	□ ペットボトルをあらい、せん用の場所にすてる □ 食品用のトレイをあらい、せん用の場所にすてる □ □

問　二　岩田さんは、【下書き②】の［　　］に、プラスチックがずっと残ってしまう理由を書くことにしました。そのために資料を探し、本を見つけました。次は、その【本の一部】です。［　　］に入る内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

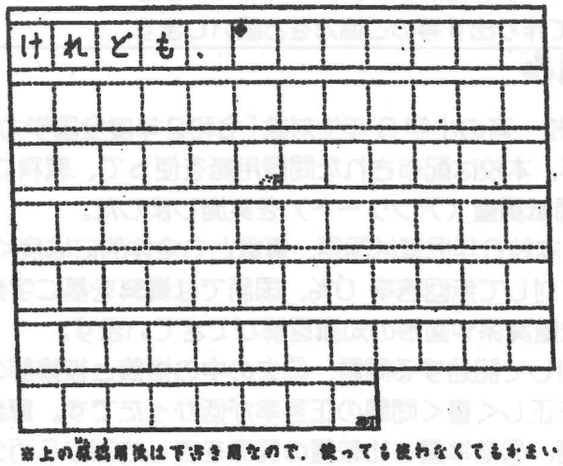
〔条件〕
○　【本の一部】から言葉や文を取り上げて書くこと。
○　岩田さんが、何という本から言葉や文を取り上げて書いたのかが分かるように書くこと。
○　書き出しの言葉に続けて、三十字以上、八十字以内で書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

【本の一部】「プラスチックのひみつ」という題名の本

◇　プラスチックを賢く使おう

プラスチックは、軽くて丈夫で持ち運びがしやすいうえ、さまざまな製品に加工することができます。わたしたちの生活を見回してみると、プラスチック製品はどんどん増えていて、生活になくてはならないものとなっています。

こんなに便利なプラスチックですが、実はプラスチックの多くは自然には分解されません。植物や動物などから作られるものは、土や水の中で微生物によって分解され、なくなってしまいます。しかし、わたしたちの身の回りで使用されているプラスチックはほとんどが石油から作られているので、自然の中では分解されません。そのため、ずっと残ってしまうのです。



※上の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※今の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

○職員研修で共通理解したこと

◆国語科における授業改善：

①　問題文で問われていることや条件へのマーキング指導

②　文章様式に沿った記述への指導

例：国語科や「レインボータイム」等で引用の書き方の指導

モデル文の提示→　「　　」という本によると、・・・・そうです。

③　学年に応じて、観察文、報告文、推薦文等の文章の書き方指導

④　習った漢字を日常的に使う、文の意味に沿って漢字を書く力、同音異義語の理解